

[ あいさつ ]

# 農業総合研究センター始動に寄せて

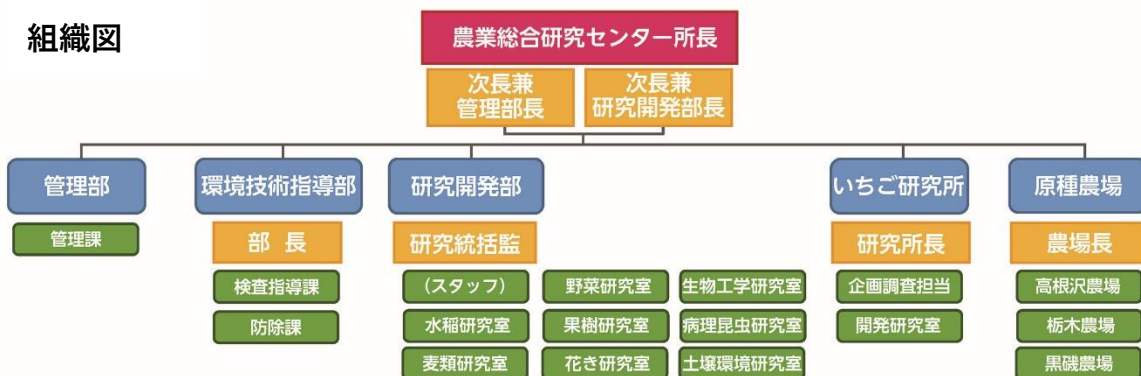
令和6年4月1日から「栃木県農業総合研究センター」が始動しました。これまでの農業試験場に農業環境指導センターを統合した新たな組織となります。

農研センターでは、本県農業の持続的な発展をめざし、オリジナル品種や気候変動に適応した栽培技術等の開発を進めるとともに、環境分野の研究開発と調査・指導業務を一元化することで「とちぎグリーン農業」推進にかかる技術分野の中核的な役割を果たしていきたいと考えています。研究開発から普及まで生産現場と共に取り組んで参りますので、今後ともよろしくお願ひします。



農業総合研究センター  
所長 紫田 和幸

## 組織図



## 令和6（2024）年度の農業総合研究センターの運営方針

### 栃木の農業の持続的発展を技術と品種でサポートします

- 1 **栃木のブランド力を高めるオリジナル品種の開発**  
耐病性や品質等の形質を的確に選抜できる DNA マーカーの開発・利用等により育種の効率化・加速化を図ります。
- 2 **気候変動・社会情勢に適応した持続的な生産技術及び水田を活用した省力・高収益を実現する生産技術の開発**  
地球温暖化に伴う気候変動に適応した栽培技術や、カーボンニュートラルの実現及び資材高騰対策に資する生産技術を開発します。また、需要に応じた水稻品種の安定栽培技術や、水田を活用した大豆や露地野菜等の安定多収栽培技術の開発に取り組みます。
- 3 **県産農産物の安定生産と安心を提供する検査・指導等の実施**  
農作物等の安定生産のため、肥料・飼料・農薬に関する法律に基づく業務や、病害虫の発生予察業務を行います。
- 4 **積極的な情報発信と将来を見据えた人材の育成**  
「開かれた農業総合研究センター」に向けて、研究成果を積極的かつ効果的に情報発信します。また、専門分野だけでなく、広い視野と発信力を兼ね備えた人材を育成します。
- 5 **原種安定生産体制の整備**  
高品質原種生産技術の継承を通じて若手技術員を育成するとともに、機械・施設の計画的な更新整備により、稲・麦・大豆原種の持続的な生産体制を確立します。